
みなかみ町立新治小学校 6 年 1 組 – PRしよう 新治の魅力（僕らの総合的な学習のまとめ）

群馬県みなかみ町にある新治小学校 6 年 1 組では、総合的な学習の時間を通じて、自分たちが暮らす地域の課題と向き合い、魅力を再発見する活動に取り組みました。少子高齢化が進み、人口が減少している現状に着目した児童たちは、地域の未来をより良くしていくために「地域の魅力を発信し、多くの人に興味を持ってもらうこと」を目標に活動を展開しました。

地域の自然「赤谷の森」に息づく生態系と保全活動

まず注目したのは、豊かな自然が広がる「赤谷の森」です。東京ドーム約 2138 個分という広大なこの森には、絶滅危惧種のイヌワシをはじめ、希少な動植物が数多く生息しています。中でも児童たちは、生態ピラミッドの頂点に位置するイヌワシに着目。その生息地を保全するため、間伐を行い、見通しをよくして狩りをしやすくする「イヌワシ木材」の取り組みに関心を寄せました。

この木材は、学校の机やお店のカウンターなどにも使われており、自然保護と地域資源の活用を両立させた先進的な取り組みであることを知りました。自然と人との共生の形を学びながら、自分たちの学校もその一端を担っていることに誇りを感じました。

農業から学ぶ、自然との共生と食の大切さ

次に、地域の特産物であるリンゴと米に焦点を当てました。リンゴ作りでは、袋がけや収穫といった手間のかかる作業を体験し、生産の大変さや工夫を実感。農家の方へのインタビューを通して、「安心して食べてもらいたい」という思いや、自然災害に左右されやすい農業の苦勞について深く学びました。

また、給食にも使われる地元のお米についても調査を行い、水のきれいさや冷たさが美味しさの秘訣であること、しろかきや水の管理の難しさといった農家の努力に触れました。こうした体験を通じて、自然の恩恵と人の手によって支えられる食のありがたさを実感しました。

歴史的背景を掘り下げた新たな魅力の発見

地域の魅力は自然や食だけではありません。旧三国街道や、地域にゆかりのある人物・塩原太助についても学習を深めました。太助が人のために尽くし、その生き方が渋沢栄一に影響を与えたという話は、児童たちにとって大きな驚きと学びとなりました。身近な場所にこんなにも多くの歴史と人物が関わっていたことを知り、地域に対する見方が大きく変わりました。

未来への展望

総合的な学習を通して、児童たちは自分たちの地域が持つ多様な魅力に気づき、それを多くの人に伝えていきたいという強い思いを育みました。発表の最後には、「この魅力を次の世代につないでいくために、自分たちも行動を続けたい」というメッセージが込められており、持続可能な地域社会の担い手としての意識が育まれていることが感じられました。